

「気象業務はいま 2024」の刊行について

気象庁では、気象庁の取り組みの現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2024」の主な内容は次の通りです。構成の詳細については次頁をご覧ください。

○ 特集

気象庁の取り組みの中から、特に皆様へお伝えしたいものに焦点を当て、内容を詳細に紹介するコーナーです。今年は、令和5年の記録的な高温を踏まえ、気候変動に関連する取り組みを紹介するとともに、「令和6年能登半島地震」に関連する取り組みについて紹介しています。

○ トピックス

気象庁の最新の取り組み等を紹介するコーナーです。今年は、地域防災支援、線状降水帯、地震・津波・火山に関する情報提供、気象情報の利活用、国際協力に関連する取り組みなどについて取り上げています。また、誕生20周年を迎えた気象庁マスコットキャラクター「はれるん」の活躍を含む、広報活動についても紹介しています。

「気象業務はいま 2024」は、6月3日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

https://www.jma.go.jp/jma/ki_shou/books/index.html

「気象業務はいま 2024」の構成

○特集 1 地球沸騰の時代が到来!? ～気象庁の気候変動に関する取り組み～

- 1 令和 5 年（2023 年）の記録的な高温を振り返る
- 2 気候変動に対する取り組み

○特集 2 令和 6 年能登半島地震

○トピックス I 地域防災支援の取り組み

- I - 1 平時・災害時の地域防災支援の取り組み
- I - 2 気象防災アドバイザーの拡充

○トピックス II 線状降水帯による大雨災害の防止・軽減に向けて

- II - 1 観測の強化
- II - 2 予測の強化
- II - 3 情報の改善

○トピックス III 地震・津波・火山に関するきめ細やかな情報の提供

- III - 1 巨大地震対策
- III - 2 緊急地震速報の技術的改善について
- III - 3 活動火山対策特別措置法の改正について

○トピックス IV 気象情報が社会で活用されるために

- IV - 1 気象業務法の改正
- IV - 2 クラウド技術を活用したデータ提供の拡充
- IV - 3 航空気象分野における気象情報の提供
- IV - 4 気象ビジネスにおけるデータ利活用促進に向けて 気象データアナリスト
- IV - 5 気候情報の利活用促進に向けた農業機関との連携
- IV - 6 社会の高度情報化に適合する気象サービス 気象予報士 30 年

○トピックス V 気象庁の国際協力と世界への貢献

- V - 1 国連早期警戒イニシアティブ「全ての人々に早期警戒を」（EW4All）と気象庁の取り組み
- V - 2 WIS2.0 導入に向けたワークショップ開催
- V - 3 第 66 次南極地域観測越冬隊長派遣

○トピックス VI 普及啓発の取り組み

- VI - 1 広報・普及啓発の取り組み
- VI - 2 はれるん誕生 20 周年
- VI - 3 気象業務 150 周年へ向けて

○トピック VII 次世代気象業務の柱

○資料編

第三者創作図表リスト、全国気象官署一覧、「気象業務はいま 2024」の利用について